

PC Card External FDD UNIT



FlashBuster

Windows 98 / 95 対応版

ユーザーズマニュアル



149208-01 Rev.A

| FlashBuster ご使用上の重要なご注意 | |
|---|--|
|  注意 | <ul style="list-style-type: none"> ■ ドライバソフトをインストールする前に、FlashBuster をパソコンに接続しないように、ご注意ください。 ■ FlashBuster のカードを抜き差しする時はドライブユニットにフロッピーディスクが挿入されていない事を確認下さい。 |
|  禁止 | <ul style="list-style-type: none"> ■ ドライブユニットのランプが点灯している状態で、フロッピーディスクを抜かないで下さい。 ■ ドライブユニットにフロッピーディスクを入れたままの状態、パソコン電源のオン・オフおよび、FlashBuster のカードの抜き差しは、行わないで下さい。データを損失するおそれがあります。 ■ ACアダプタ添付モデルの場合、ドライブユニットにフロッピーディスクが入っている時、FlashBuster がパソコンに装着されている時には、ACアダプタの着脱は行わないで下さい。 |

ご注意

- この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。
- 弊社の許可なく本書の一部または全てを複写、転載することは禁止されています。
- 仕様、外観およびマニュアルの内容は、将来予告なしに変更する場合があります。
- 本マニュアルは、Windows 98 / 95 対応版 **FlashBuster** に対応したものです。以前に Windows 95 対応版として市販された **FlashBuster** とは、PC カードの内容などが異なりますのでご注意ください。
- 本製品に含まれるソフトウェアは、「8.付属ドライバソフトの使用条件(P.40)」のもとでのみ使用することが出来ます。ご使用前に一読願います。
- 本製品使用中に、本製品やフロッピーディスクなどの事故、故障などにより記録データの破壊、消失が生じた場合の損害については補償いたしかねます。また、本製品の使用により、お客様のご期待に添わない結果となった場合にも、その結果につきましては責任を負いかねます。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、記載もれなどお気付きの点がございましたらご連絡下さいますようお願いいたします。

YE DATA、FlashBuster は(株)ワイ・イー・データの登録商標です。

PCMCIA は 米国 Personal Computer Memory Card International Association の商標です。

JEIDA は社団法人日本電子工業振興協会の商標です。

IBM、PC-DOS は米国 International Business Machines Corporation の登録商標です。

MS-DOS は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

Windows は米国 Microsoft Corporation の商標です。

Phoenix は米国 Phoenix Technologies Ltd. の登録商標です。

その他、本書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

目次

| | |
|--|----|
| 1. ご紹介..... | 1 |
| 1.1. 特徴..... | 1 |
| 1.2. 付属品について..... | 1 |
| 1.3. 各部の名称..... | 2 |
| 2. 接続可能なパソコン..... | 3 |
| 3. お取り扱い上の注意..... | 4 |
| 3.1. 環境について..... | 4 |
| 3.2. 操作について..... | 5 |
| 4. 各機種でのインストール方法..... | 7 |
| 4.1. 東芝 Libretto・Libretto SS シリーズの場合..... | 8 |
| 4.2. HP 100LX / 200LX の場合..... | 11 |
| 4.3. 富士通 INTER Top / INTER Top Model 20 の場合..... | 15 |
| 4.4. Windows 98 パソコンの場合..... | 16 |
| 4.5. Windows 95 パソコンの場合..... | 18 |
| 4.6. メモリカードから Windows 95 ドライバをインストールする..... | 20 |
| 4.7. I N T 1 3 を有効にする方法 (Windows 95 用ドライバ)..... | 24 |
| 4.8. MS-DOS または、Windows3.1 の場合..... | 27 |
| 5. 正常に動作しないとき..... | 34 |
| 5.1. Windows で、「3.5 インチ F D」のアイコンが出ない..... | 34 |
| 5.2. ドライブの準備が出来ていないと表示される..... | 37 |
| 5.3. カードを入れた直後の数秒間キーボード入力出来ない..... | 37 |
| 5.4. 他の I/O(モデムなど)カードが FlashBuster と同時に動作しない..... | 37 |
| 5.5. カードを差し込んだ後の最初のリードライトに時間がかかる..... | 37 |
| 5.6. FlashBuster でのリードライトが異常に遅い..... | 37 |
| 5.7. I B M 社製 P C 1 1 0 で動作しない..... | 38 |
| 5.8. FlashBuster を接続したら、ハードウェアウイザードが出る..... | 38 |
| 5.9. FlashBuster から起動 (Boot) 出来ない..... | 38 |
| 6. 製品仕様..... | 39 |
| 7. 製品お問い合わせ窓口..... | 40 |
| 8. 付属ドライバソフトの使用条件..... | 40 |

はじめに

この度は、PC カードインターフェース用フロッピーディスクユニット **FlashBuster** をお買求めいただき、まことにありがとうございます。

本書では、**FlashBuster** のご紹介、ご使用に必用なソフトウェアのインストール方法などについて解説します。本製品をご使用前に、必ずご一読下さるようお願いいたします。

このマニュアルには、次のような事項が解説されています。

- **FlashBuster** のご紹介（特徴・付属品・各部の名称）
- **FlashBuster** を接続可能なパソコン
- お取り扱い上の注意
- 各機種でのインストール方法
- 正常に動作しないとき（トラブルシュート）
- 製品お問い合わせ窓口（サポート）
- 付属ドライバソフトの使用条件

表記上の規則

このマニュアルは、次の表記規則に従って記述されています。

| 表記 | 意味 |
|--|---|
| 節タイトル | 大きいゴシック体文字で、表記します。 |
| 項タイトル | 小さいゴシック体文字で、表記します。 |
| [キー] | キーは、[Enter] のように括弧で囲って表記します。 |
| コマンド ドライブ名 ディレクトリ名 フォルダ名 ファイル名 | コマンド、ドライブ名、ディレクトリ名、フォルダ名、ファイル名は、ゴシック体文字で表記します |
| 【警告】 | 指示に従わない場合は、機器の損傷またはデータの損失が起きるおそれがあることを知らせます。 |
| 【注意】 | 明確を期すための情報、または特殊な指示を示します。 |

1. ご紹介

1.1. 特徴

FlashBuster は、外置きドライブユニットと、P Cカード Type- 規格(厚さ 5mm)の PC カードで構成された、拡張フロッピーディスクシステムで、以下のような特徴を持っています。

- PC カードにより、簡単にフロッピーディスクドライブが増設出来ます。
P Cカードの規格に準拠したパソコンならば、ほとんどの機種に接続出来るため、パソコン機種専用の増設ドライブを、パソコンごとに用意するという無駄が省けます。
- インストールプログラムがカードに内蔵されています。従って、インストールを行うためにフロッピーディスクドライブがない状態でも、インストールすることが可能です。
- ドライブユニットは、3モード(1.44M、1.2M、720K)対応であるため、幅広い対応が可能です。
【注意】Windows 98 では、MS-DOS 3.1 以前のシステムでフォーマットされた 1.2M のフロッピーディスクをサポートしていません。
- Windows 98、Windows 95、Windows 3.1、MS-DOS と幅広い O S 環境でお使いになれます。

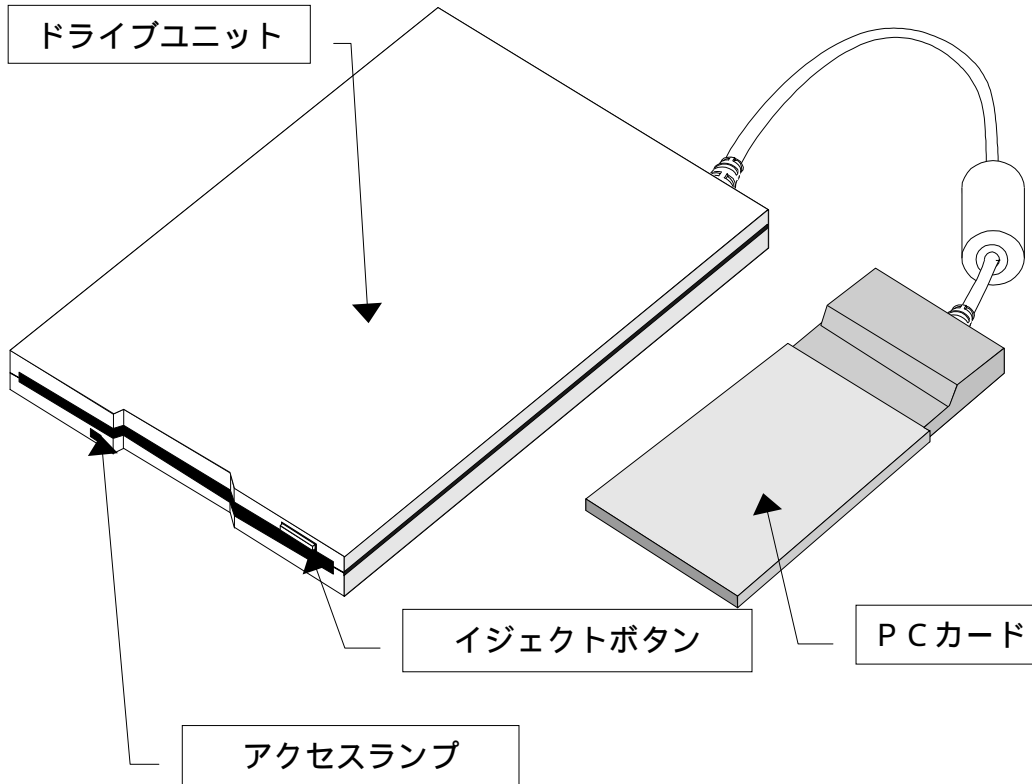
1.2. 付属品について

本製品には、以下のものが付属しています。ご使用前に不足がないかご確認下さい。

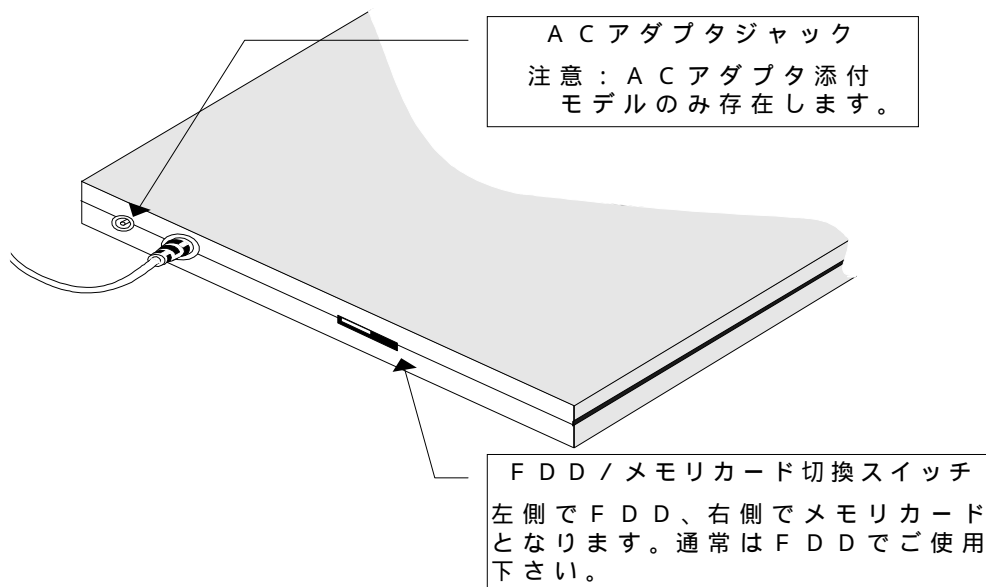
- FlashBuster 本体 (P Cカード付ドライブユニット)
- A Cアダプタ (A Cアダプタ付属モデル MODEL YD-8H00-01312005 のみ)
- ドライバディスク (3.5 インチフロッピーディスク)
- 保証書
- ユーザ登録カード (はがき)
- ユーザーズマニュアル (本書)

1.3. 各部の名称

- 前面



- 背面



2. 接続可能なパソコン

FlashBuster をお使いいただくには、以下のすべての条件を満たしていることが必要です。

- IBM PC-AT 互換パソコンであること。
- PCカード Type 規格カードソケットを持っていること。
- Windows95、Windows98 または MS-DOS (PC-DOS を含む)5.0 以上の DOS がインストールされていること。
- MS-DOS でご使用の場合、PCカード 2.1 のカードサービスソフト、およびメモリカードドライバがインストールされていること。

また、特別に、以下の機種で使いになることができます。

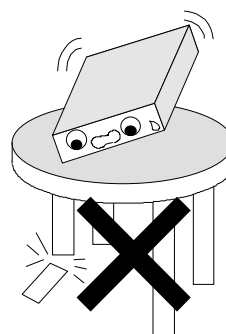
- 東芝 Libretto シリーズ、Libretto SS シリーズ
そのままカードを挿入するだけで、使いになれます。また、FlashBuster から起動 (Boot) することも可能です。
- HP 100LX・200LX
AC アダプタ付きモデルでは、製品付属の専用ドライバをお使いになることで HEWLETT PACKARD 社のパームトップ PC HP200LX および HP100LX で、ご使用になれます。
- 富士通 INTER Top、INTER Top モデル 20
AC アダプタ付きの機種を推奨します。通常の DOS マシンと同様にお使いになれます。
【注意】CX シリーズなどの、Windows CE を採用した INTER Top では、使いになれません。
- シャープのワープロ「モバイル書院」
AC アダプタ付きモデルでは、モバイル書院で使いになれます。モバイル書院でのご使用方法は、このマニュアルには記載されていないのでモバイル書院のマニュアルをご覧ください。
- IBM PC 110
AC アダプタ付モデルでは、DOS 用のドライバをインストールすると、PC 110 で FlashBuster を使いになれます。

3. お取り扱い上の注意

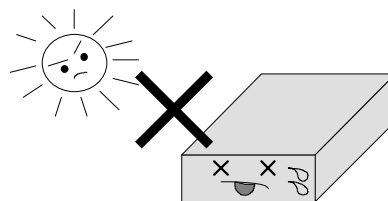
FlashBuster を末永くご愛用いただくために、以下の点にご注意下さい。

3.1. 環境について

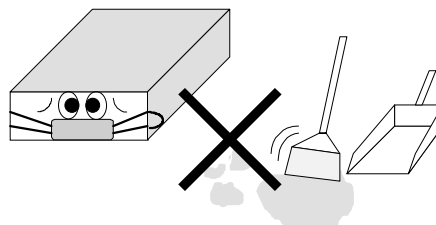
- FlashBuster は精密機械です。特に、ドライブユニットを激しい衝撃や振動の加わる場所でご使用・保管されますと、機器の破損やデータの損失を引き起こしますのでお避け下さい。



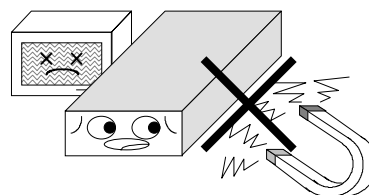
- 直射日光が当たる所や暖房器具のすぐそばなど、異常な温度上昇を招く恐れがある場所でのご使用はお避け下さい。また温度や湿度が急変する場所でのご使用も、ユニットやカード内部に結露を生じ誤動作を引き起こす恐れがあります。



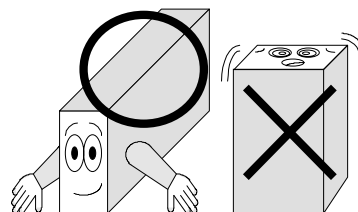
- ホコリが多い環境では、ドライブユニット内部にたまったホコリでフロッピーディスクに傷を付いたり、機構部の動作障害を引き起こしたりしますのでお避け下さい。



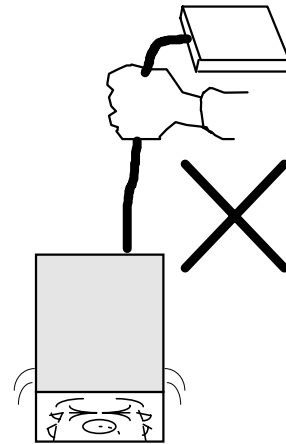
- ラジオ、テレビのそばで使用すると、これらにノイズを与える恐れがあります。また、掃除機など強力な磁界を発生する機器のそばでのご使用は、本機の誤動作やデータを損失する恐れがありますのでお避け下さい。



- ドライブユニットは、横置き（水平置き）でお使いになることをお勧めしますが、やむを得ない場合には縦置きでもお使いになれます。この時は転倒しないようご注意ください。なお、垂直向き（フロントパネルが上または下向き）では、お使いにならないようご注意ください。

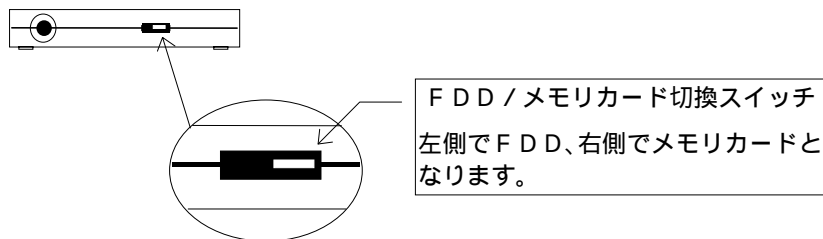


- 運搬時にドライブユニットをぶら下げないで下さい。また、ご使用の際でもケーブルを引っ張った状態でのご使用は避けて下さい。

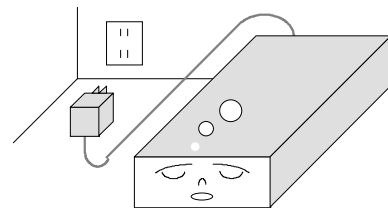


3.2. 操作について

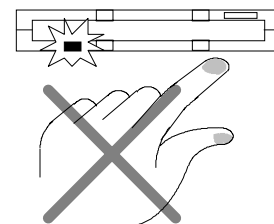
- FlashBuster の P C カードは、パソコンの電源がオンの時にも抜き差しは自由です。しかし、パソコンに P C カードを入れた状態での F D D / メモリカード切換えの操作を行っても機能の切換えは行われません。必ずパソコンから P C カードを抜いてスイッチを操作して下さい。



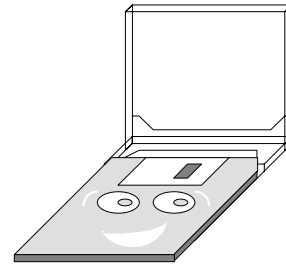
- FlashBuster をパソコンに接続、取り外し時には、フロッピーディスクを取り出して下さい。
- A C アダプタの装着は、FlashBuster をパソコンに接続する前に行ってください。
- A C アダプタの取り外しは、FlashBuster をパソコンから取り外してから行って下さい。



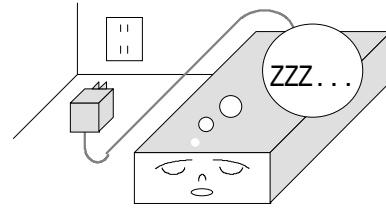
- アクセスランプが点灯している時に電源をオフにしたりフロッピーディスクを抜かないようにして下さい。特に書き込み中の場合はデータを破壊する恐れがあります。
- パソコンの電源オン・オフは、フロッピーディスクを取り出してから行って下さい。



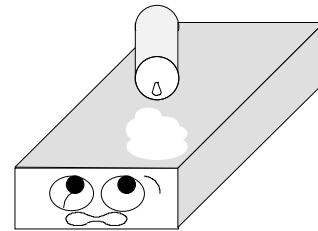
- ご使用にならない時はドライブユニットにフロッピーディスクを入れたままになさらず、フロッピーディスク保管ケースに入れて保管されることをお勧めします。



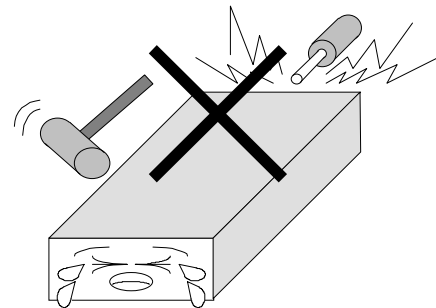
- 濡れた手や足でACアダプタを触らないようにして下さい。
- ACアダプタ添付モデルの場合、外出、旅行などで長時間ご使用にならない時は、安全のためACアダプタをコンセントから抜いて下さい。



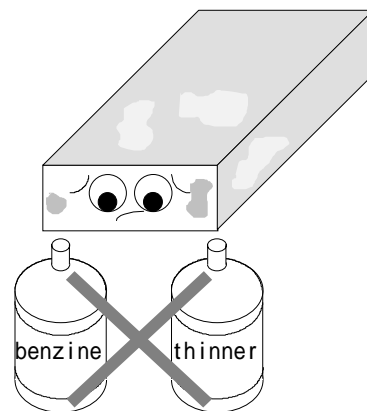
- 製品内部に異物が入らないようご注意ください。特に液体や金属類の場合は故障の原因となるだけでなく感電・火災などの事故を起こす恐れがあります。万一異物が入った時は速やかに電源を切りお買い求めの販売店にご相談下さい。



- 製品は分解しないで下さい。組み立て調整には特殊な設備が必要です。なお、分解された場合には、保証期間内の故障であっても有償修理となります。
- ACアダプタなどのコードが破損したり、傷がついた場合には、使用しないようにして下さい。



- 製品が汚れたときは、水か中性洗剤を柔らかい布に垂れ落ちない程度含ませて、軽く拭いて下さい。ベンジンなどの有機溶剤はケースの色落ちや樹脂部分変形の原因となりますので使用しないで下さい。また、殺虫剤スプレーも同様の成分を含んでいる場合がありますので、すぐそばでは使用しないで下さい。



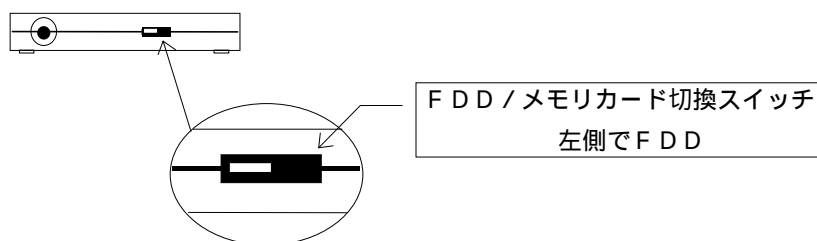
4. 各機種でのインストール方法

インストール前に

FlashBuster は、ご利用の前に、ドライバソフトを予めインストールする必要があるため、ドライバソフトのインストールが終了するまで、パソコンに接続しないようにして下さい。

【注意】ドライバをインストール前に、Windows パソコンに接続されると、Windows の PnP 機能が働いて、誤った情報で登録されて、その後のインストールがうまく出来ないことがあります。この場合は、「5.1.1.「その他のデバイス」として認識されていませんか？(P.34)」をご参照下さい。

FlashBuster のモード切換えスイッチは、F D Dモードになっていることをご確認ください。



ご利用になるパソコンの種類によって、インストール方法が異なりますので、以下の表に従って、インストール方法を説明しているページまたは、別マニュアルをご参照下さい。

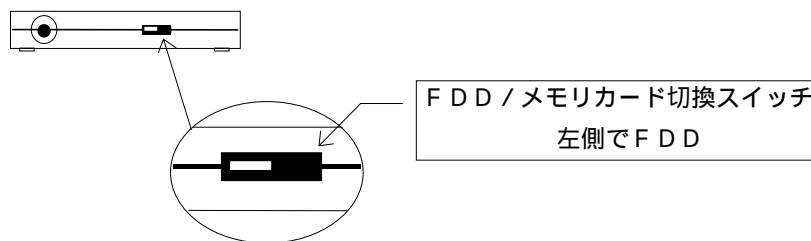
| ご利用になるパソコン | インストール方法の概要 | 説明ページ |
|---|--|---------------------------|
| 東芝 Libretto シリーズ Libretto SS シリーズ | そのまま、カードを挿入するだけでお使いになれます。 | 8ページ |
| HP 200LX / 100LX | メモ리카ード内の専用ドライバ lxfb.exe を実行後、ご使用になれます。 | 11ページ |
| 富士通 INTER Top INTER Top Model 20 | MS-DOS 用のドライバでご使用になれます。Windows CE が搭載された機種ではご使用になれません。 | 15ページ |
| シャープ モバイル書院 | AC アダプタを接続してから、モバイル書院本体に接続することでお使いになれます。 | シャープのモバイル書院のマニュアルをご覧ください。 |
| Windows 98 パソコン | ドライバディスクの、Win98 ディレクトリから setup.exe を起動して、ドライバをインストールします。 | 16ページ |
| Windows 95 パソコン | ドライバディスクの、Win95 ディレクトリから setup.exe を起動してドライバをインストールします。 | 18ページ |
| Windows 3.1 パソコン MS-DOS パソコン IBM PC-110 | メモ리카ードから、 install.exe を起動してドライバをインストールします。 | 27ページ |
| Windows NT 3.51 / 4.0 (ご参考) | サポート外となりますが弊社 Web ページ http://www.yedata.co.jp のサポートページに試用版ドライバがあります。 | インターネット経由でダウンロードして下さい。 |

4.1. 東芝 Libretto・Libretto SS シリーズの場合

4.1.1. インストール方法

東芝 Libretto シリーズ/Libretto SS シリーズでは、Windows 95 モデルと、Windows 98 モデルがありますが、どちらの場合も、TOSHIBA PCMCIA Floppy 用のドライバが予めインストールされた状態で、出荷されています。**FlashBuster** は、TOSHIBA PCMCIA Floppy と互換性がありますので、純正の Libretto 専用フロッピーディスクドライブと同様にご使用出来ます。

カードを挿入する前に、**FlashBuster** 本体後方にある FDD/メモリカード切換えスイッチの位置が、FDD側であることをご確認下さい。



FlashBuster の PC カードをパソコン本体に挿入しますと、「新しいハードウェアが検出されました」の表示が出て、自動的に、**FlashBuster** は、TOSHIBA PCMCIA Floppy として認識されます。認識後は、**FlashBuster** を A ドライブとしてお使いになれます。

4.1.2. 東芝 Libretto / Libretto SS 固有の機能

東芝、Libretto / Libretto SS シリーズでは、PC カード FDD に対応するプログラムがパソコン本体の BIOS に組込まれていますので、特別に以下の機能がお使いになれます。

1) フロッピーディスクからの起動(Boot)

起動(Boot)可能なフロッピーディスクを、**FlashBuster** に挿入しておけば、フロッピーディスクから起動できます。

2) MS-DOS モードでの使用

Windows を起動時に、起動メニューから、command prompt only モードを選択されても、**FlashBuster** は、A ドライブとして動作します。但し、カードの抜き差しには対応していません。予め、**FlashBuster** を、パソコン本体に接続してから、起動して下さい。起動メニューは、Windows 起動時に、画面上部に Starting Windows (95/98)表示が出たときに、素早く[F 8]キーを押すことで表示出来ます。

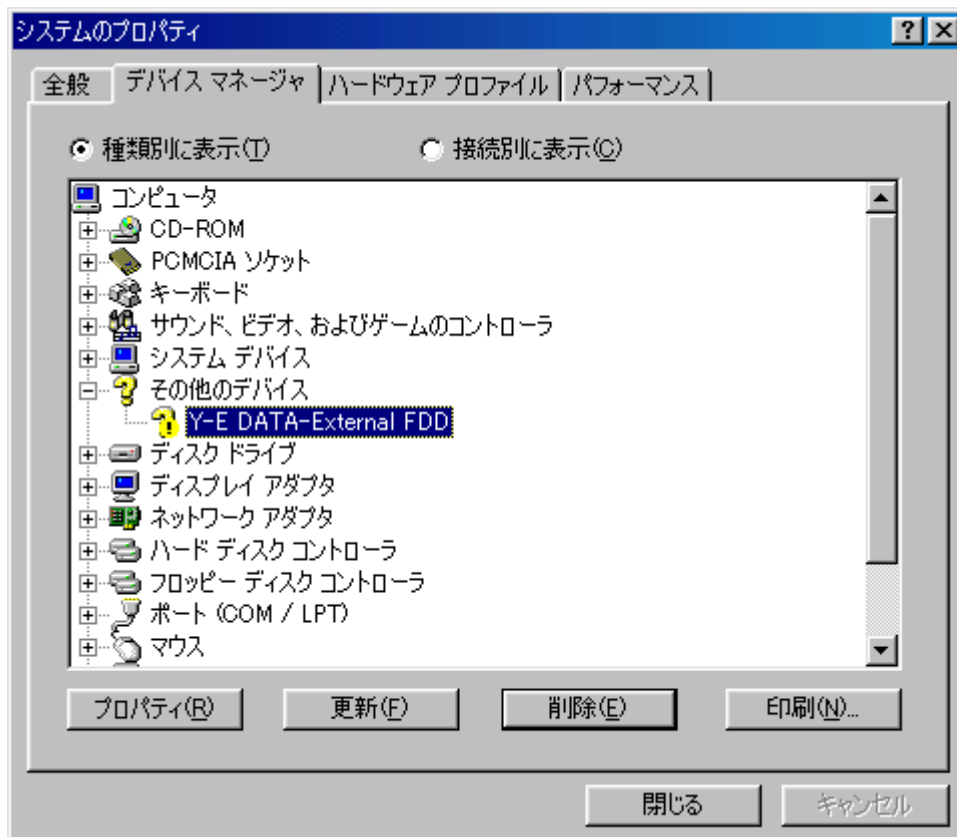
一旦 Windows を起動してから、終了画面で、MS-DOS モードを選んだ場合は、**FlashBuster** は動作しません。

4.1.3. Libretto シリーズで動作しない場合

Libretto シリーズで正常動作しない場合は以下の項目をご確認下さい。

FlashBuster を Libretto に接続した状態でコントロールパネルの「システム」アイコンをダブルクリックして、システムのプロパティを起動して下さい。

「デバイスマネージャ」のタブをクリックして「その他のデバイス」に「Y-E DATA External FDD」が追加されていないかをご確認下さい。



上記のように、「Y-E DATA External FDD」が追加されていた場合は「Y-E DATA External FDD」をクリックして選択してから、[削除(E)]ボタンを押して削除して下さい。

削除できましたら、**FlashBuster** を Libretto から一旦取り外し、再び接続すると、「新しいハードウェアが検出されました」のダイアログが出て、自動的にドライバがインストールされます。

上記削除を行っても、再びその他のデバイスに、「Y-E DATA External FDD」が追加される場合や、新しいハードウェアの検出後に、ドライバソフトが自動的にインストールされない場合は、ドライバがインストールされていないことが考えられます。ドライバを、**FlashBuster** 付属のドライバディスクからインストールすることも出来ませんが、Aドライブにならないなどの制限がありますので、Libretto 付属のリカバリーCDなどを用いて、システムをリカバリーすることを、ご検討下さい。

Windows 95 がプリインストールされたモデルの場合

Windows 95 がプリインストールされている Libretto では、**FlashBuster** に設定されているハードウェアリソースが以下の設定となっているかをご確認下さい。

もし、以下の設定ではない場合は以下の設定として下さい。

Libretto 20 から 100 までの設定

I/O ポート 3 A 8 - 3 A F (基本設定 2)

IRQ 1 5

なお、**FlashBuster** のハードウェアリソースの確認と設定変更は **FlashBuster** を Libretto に接続した状態で「デバイスマネージャ」を起動し「周辺デバイスコントローラ」に追加されている「TOSHIBA PCMCIA Floppy」の「プロパティ」で行って下さい。

Windows 98 の場合

FlashBuster を接続しても、以下のダイアログが出て、自動的にドライバがインストールされない場合は、パソコン出荷時に組込まれているドライバソフトが何らかの原因で、見つからなくなったことが原因です。



Windows 98 がプリインストールされているモデルの場合には、付属のリカバリーCD-ROM を用いて、工場出荷時の状態に戻されることをご検討下さい。

Windows 95 がプリインストールされたモデルに、Windows 98 を新規インストールされますと、Windows 95 に予めインストールされていたドライバが無くなるので、Windows 95 にリカバリーされてから、重ね書きインストールで、Windows 98 にアップグレードして下さい。

FlashBuster 付属のドライバディスクからドライバをインストールすることも出来ますが、Aドライブにならないなどの、制限があります。

4.2. HP 100LX / 200LX の場合

FlashBuster(AC アダプタ付きモデル)は、HEWLETT PACKARD 社のパームトップ P C HP 200LX / HP 100LX にてお使いになることが出来ます。

【重要】 ドライバの組込み時に不慮の事故で、大切なデータを失う場合があります。Cドライブの重要なデータは、事前にフラッシュ A T A ディスクなどにバックアップしておいて下さい。

【重要】 P C カードの抜き差し時には、必ず L X 本体の電源をオフにしてから行って下さい。また、FlashBuster のカードを挿入前に、必ず FlashBuster 本体に付属の A C アダプタを接続して下さい。(AC アダプタの付属しない FlashBuster ではお使いになれません)

FlashBuster 本体の後部にある、FDD/メモ리카ード切換えスイッチは、常に左側 (FDD) にしてお使い下さい。

4.2.1. 使い方の概要

FlashBuster は、生 DOS モードで P C カード (Aドライブ) 内にあるドライバソフト lxfb.exe を実行すると、ドライバが、メモリ上に常駐して、使えるようになります。

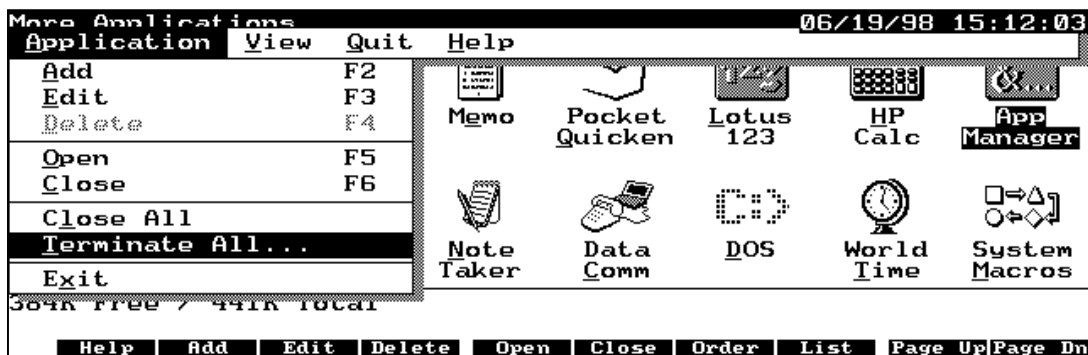
ドライバソフトには、FlashBuster を接続時に起動して使用方法と、autoexec.bat に組込んで使用方法があります。以下の説明に従い、ドライバソフトを組込んで下さい。

4.2.2. ドライバソフト LXFB.EXE の起動方法

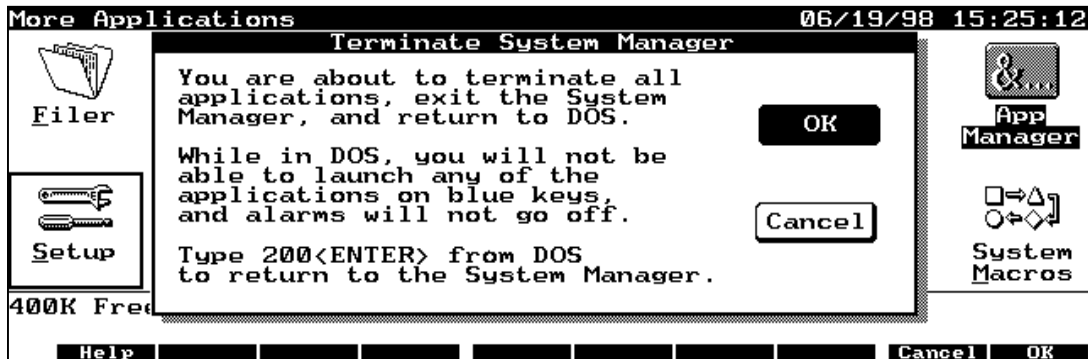
1) 生 DOS モードにする

ドライバソフトを組込む前にシステムマネージャを終了させて、生 DOS モードにする必要があります。[&...] (MORE) キーを押して、More Application を起動します。

[MENU]キーを押して、[A] [T]の順にキーを押して下さい。



Terminate System Manager のダイアログが出ますので、[F10] (OK) を押しますと、システムマネージャが終了して、DOS のプロンプトが出ます。



2) FlashBuster を接続する

100LX / 200LX の電源をオフにして、PC カードソケットから、メモリカードなどが挿入されていた場合は、カードを抜いて下さい。FlashBuster 本体に、AC アダプタを接続して、コンセントにつないで下さい。カードを 100LX / 200LX に挿入する前に必ず AC アダプタを接続して下さい。

FlashBuster の PC カードを 100LX / 200LX に挿入して下さい。

3) ドライバソフトを起動する

100LX / 200LX の電源をオンにして、以下のように、a:lxfb とタイプして ENTER キーを押してドライバを起動して下さい。

```
C:¥_DAT>a:lxfb
```

以下のドライバの起動表示が出れば、ドライバは正常に起動して、フロッピーディスクドライブが使える状態になります。ドライブ名は、ドライバの起動画面に表示されます。以下の例では、F: となっています。フロッピーディスクをドライブユニットに挿入して、正常に読み書きができるかご確認下さい。

```
Y-E DATA 3 Mode FD Driver Version 0.00 for FlashBuster
Copyright (C) 1996 Y-E DATA.
All Rights Reserved
Socket 0 - installed 1 unit at drive F:      フロッピーディスクのドライブ名
Driver installed.
C:¥_DAT>
```

必要に応じて、システムマネージャを再起動します。システムマネージャの Filer や、More Application の DOS アイコンからでも、フロッピーディスクをアクセス出来ます。システムマネージャの再起動方法は、お使いのシステムにより異なります。

C:¥_DAT>100.....HP 100LX で、英語モードでお使いの場合
 C:¥_DAT>200.....HP 200LX で、英語モードでお使いの場合
 C:¥_DAT>sm.....HP 100LX/ HP 200LX で、日本語化キット組込みの場合*

【注意】オカヤシステム株式会社製の「HP 200LX 日本語化キット」を、フラッシュ ATA カードに組込まれている方は、システムマネージャ起動時に、日本語化用のファイルをフラッシュ ATA カードから読み込む必要がありますので、再起動前に、一旦 100LX/200LX の電源をオフにして、カードをフラッシュ ATA カードに交換する必要があります。

4.2.3. ドライバソフトを autoexec.bat に組込む方法

「4.2.2. ドライバソフト LXF.B. EXE の起動方法 (P.11)」でも、FlashBuster をご使用になれますが、100LX / 200LX 本体をリセットした時に、毎回ドライバを再度組込む必要があります。リセット時に自動的にドライバを組込むようにするには、ドライバのコピーと autoexec.bat の編集が必要になります。具体的な方法は、お使いのシステムにより異なりますので、一般的な例 (200LX に、日本語化キットをフラッシュ ATA カードにインストールした場合) で説明します。

1) ドライバソフトのコピー

起動ドライブに、ドライバソフトをコピーします。まず、FlashBuster のカードを挿入し、a:¥lxfb.exe を、c:ドライブにコピーして下さい。次に、FlashBuster のカードを、フラッシュ ATA カードと交換して、c:ドライブから、lxfb.exe を a:¥に移動して下さい。

2) autoexec.bat の編集

autoexec.bat に、a:¥lxfb.exe を追加して下さい。日本語化キットがインストールされている場合は、sm の行の前に追加する必要があります。

```
@echo off
path c:¥;d:¥;d:¥bin;d:¥dos
path %path%;a:¥mifes;a:¥wx2;
path %path%;a:¥jkit
c:

assign e:= a:                標準で組込まれていますが、特に必要ありません
                              (ドライブ a:を e:としてアクセスするためのものです)

b:¥bin;cic100 /gen 1         モデムカードをお使いになる場合に必要

lxdspd -us
call d:¥bin¥llras           LapLink リモートをお使いになる場合に必要
lxdspd -jp

a:¥lxfb                      追加 FlashBuster をお使いになる場合に必要

sm
```

autoexec.bat の一例 (日本語化キットが組込まれている場合)

3) システムの再起動

[CTRL]キーと[ALT]キーと[DEL]キーの3つのキーを同時に押すことで、システムの再起動を行います。システムの再起動後は、**FlashBuster** を挿入することで、お使いになれます。

4.2.4. ドライバの詳細説明

1) ドライバのオプション

lxfb.exe は、TSR (常駐型)ドライバです。必要の無いときには、**lxfb /r** で再起動することで、常駐を解除して、メモリを節約出来ます。

/B :ドライバが、**FlashBuster** の挿抜を検出した時に、ピープ音をならします。

/J :ドライバのメッセージを日本語で表示します。

/R :ドライバの常駐を解除します。

2) 使用するハードウェアリソース

I/O PORT : 300h ~ 307h

割り込み番号: IRQ 3

ドライバの常駐サイズ : 約 13KB 程度

I/O ポートと、IRQ は、**FlashBuster** カードが挿入されている時のみ割当てします。

3) 読み書きが可能なフロッピーディスクフォーマット

1.44MB,1.21MB,1.25MB,720KB,640KB の5種類です。

但し、1.25MB と 640KB のフロッピーディスクのフォーマットは、行うことが出来ません。他のフロッピーディスクフォーマットは、DOS コマンドの **format** で行うことが出来ます。

4.2.5. トラブルシュート

1) ドライバを組込む時に、Needs LASTDRIVE setting との表示が出る。

config.sys に、LASTDRIVE の設定が必要です。**config.sys** の先頭に、LASTDRIVE = F: お使いのドライブ数 + 1 (フロッピーディスクの分) を追加して下さい。

2) 一度は動作したが、システムマネージャに戻り起動したら、動作しなくなった。

ドライバソフトは、システムマネージャを完全に終了した状態で組込む必要があります。More Application の DOS アイコンや、[CTRL]+[123]キーでの DOS、Filer の Option Menu からの DOS モードでは、組込みは出来ません。「4.2.2. ドライバソフト **LXFB.EXE** の起動方法 (P.11)」を参照してシステムマネージャを一旦終了させて下さい。

3) 一度は動作したが、リセットしたら動作しなくなった

ドライバ、リセットを行う度に、起動する必要があります。「4.2.2. ドライバソフト **LXFB.EXE** の起動方法 (P.11)」に従って、再度ドライバを起動して下さい。

4) FlashBuster カードを挿入したら、LX 本体に異常が発生した

100LX / 200LX の PC カードソケットでは、電流供給が不足しますので、カードを挿入する前にドライブユニットに、AC アダプタを接続しておく必要があります。また、カードの抜き差しは必ず 100LX / 200LX 本体の電源をオフにして行って下さい。

4.3. 富士通 INTER Top / INTER Top Model 20 の場合

富士通 INTER Top および、INTER Top Model 20 では、DOS用のドライバをインストールすることで、FlashBusterのACアダプタ付きモデルをお使いになることができます。

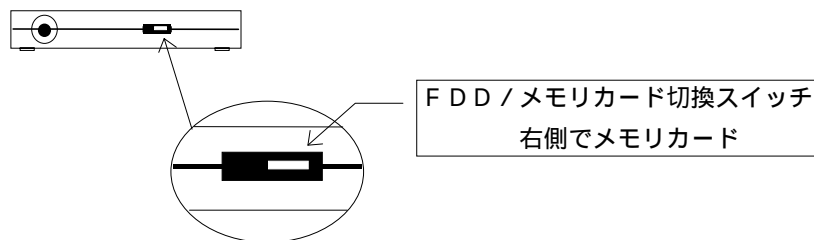
FlashBusterのPCカードの中に、ドライバソフトが入っています。このドライバをインストールすることで、INTER Topで、FlashBusterがお使いになれます。

【注意】INTER Top CXシリーズなどの、Windows CEを採用した機種では、お使いになれません。

4.3.1. FlashBuster を、メモリカードモードに切替える

PCカードは、切替えによって、ドライバソフトが読みだせるメモリカードモードと、フロッピーディスクを読み書きするFDDモードがあります。

FlashBuster 本体後方にあるスライドスイッチを、ケーブルから遠いほうに移動して、メモリカードモードに切替えて下さい。



4.3.2. FlashBuster に AC アダプタを接続する

FlashBuster に、AC アダプタを接続して、コンセントにつないで下さい。FlashBuster を、INTER Top に接続する場合は、事前に、AC アダプタを接続するようにして下さい。

4.3.3. INTER Top にカードを挿入して、MS-DOS MODE にする

INTER Top に FlashBuster のカードを挿入して、アクセサリ プロンプトを順にタッチして、MS-DOS のプロンプトにして下さい。

メモリカードは、通常 F ドライブとなりますので、dir F: とタイプして、カードが読めるか確認下さい。

4.3.4. ドライバソフトをインストールする

ドライブのメモリカード上の install を起動すると、ドライバソフトがインストール出来ます。finstall とタイプしてドライバのインストールを開始して下さい。インストールが終了したら、一旦カードを抜いて、INTER Top を再起動して下さい。

4.3.5. カードを FDD モードにして、挿入する

FlashBuster 本体後方にあるスライドスイッチを、ケーブルに近い方に移動して、FDDモードに切替えてから、FlashBuster を INTER Top に挿入するとフロッピーディスクがアクセス出来ます。通常は、Jドライブになります。

4.4. Windows 98 パソコンの場合

Windows 98 用のドライバは、付属のドライバディスクの **WIN98** フォルダに格納されています。

4.4.1. 付属のドライバディスクがお使いになれない場合

FlashBuster 以外のフロッピーディスクドライブが無いなどの理由で、ドライバディスクがお使いになれない場合は、「4.6.メモリカードから Windows 95 ドライバをインストールする (P.20)」を参照していただき、一旦 Windows 95 ドライバをメモリカードからインストールして下さい。続けて、「4.7. INT 13 を有効にする方法 (Windows 95 用ドライバ)(P.24)」をご覧になって、INT13 を有効にさせていただくと、**FlashBuster** が動作するようになります。付属のドライバディスクから、Windows98 用のドライバを上書きインストールして下さい。

また、LANをお使いになれる場合は、LAN経由でドライバディスクを本体パソコンのハードディスクにコピーしてインストールすることも出来ます。

インターネットにアクセス出来る場合は、弊社ホームページ <http://www.yedata.co.jp> から、Windows 98 用のドライバを本体パソコンのハードディスクに直接ダウンロードして下さい。

4.4.2. Windows 98 用ドライバのインストール方法

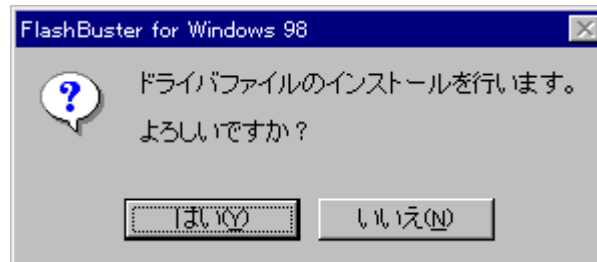
以下に、付属のドライバディスクからインストールする場合で説明しますが、ハードディスクにドライバをコピーされた場合でも同様にインストール出来ます。

ドライバのインストールソフトは、付属のドライバディスクの **Win98** フォルダにあります。**Win98** フォルダを開いて、Setup アイコンをダブルクリックして、ドライバをインストールして下さい。

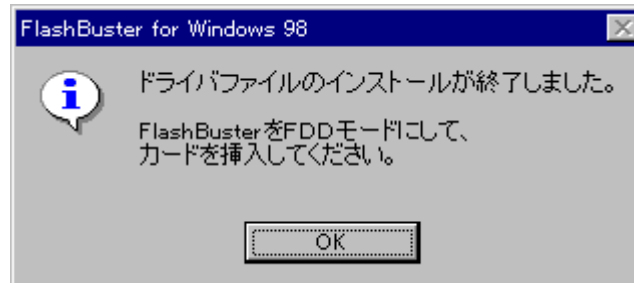
ドライバを、ハードディスクにコピーされてインストールされる場合は、ドライバをコピーしたフォルダに、Setup アイコンがあります。



Setup アイコンをダブルクリックすると、インストール用セットアッププログラムが起動しますので、[はい(Y)]ボタンを押して、インストールを開始して下さい。



インストールが終了すると、以下の画面になりますので、[OK]ボタンを押してセットアッププログラムを終了して下さい。



FlashBuster の PC カードを、パソコンに挿入して下さい。Windows は、新しいハードウェアを検出しましたとの表示を出して、自動的に **FlashBuster** を Y-E DATA External FD として認識します。

マイコンピュータに、3.5 インチ FD が D ドライブなどとして追加されます。ドライブ名は、お使いのパソコンの環境によって、D ドライブ以降の空いた名前となります。A ドライブは、**FlashBuster** ではありませんので、ご注意ください。



以上で、**FlashBuster** をお使いになれます。

4.5. Windows 95 パソコンの場合

Windows 95 用のドライバは、付属のドライバディスクの **WIN95** フォルダに格納されています。

4.5.1. 付属のドライバディスクがお使いになれない場合

FlashBuster 以外のフロッピーディスクドライブが無いなどの理由で、ドライバディスクがお使いになれない場合は、「4.6. メモリカードから Windows 95 ドライバをインストールする (P.20)」を参照していただき、Windows95 ドライバをメモリカードからインストールして下さい。

また、LANをお使いになれる場合は、LAN経由でドライバディスクを本体パソコンのハードディスクにコピーしてインストールすることも出来ます。

インターネットにアクセス出来る場合は、弊社ホームページ <http://www.yedata.co.jp> から、Windows 95 用のドライバを本体パソコンのハードディスクに直接ダウンロードして下さい。

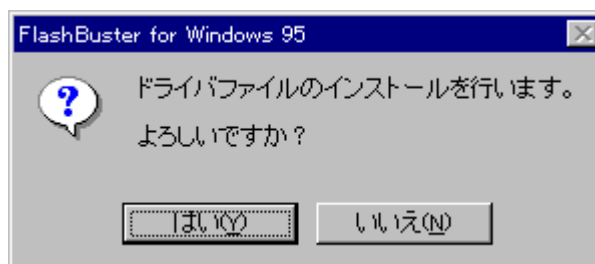
4.5.2. Windows 95 用ドライバのインストール方法

以下に、付属のドライバディスクからインストールする場合で説明しますが、ハードディスクにドライバをコピーされた場合でも同様にインストール出来ます。

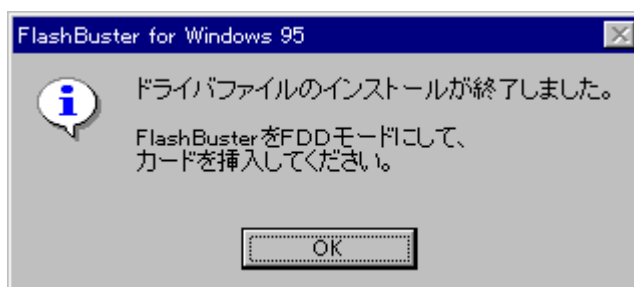
ドライバのインストールソフトは、付属のドライバディスクの **Win95** フォルダにあります。**Win95** フォルダを開いて、Setup アイコンをダブルクリックして、ドライバをインストールして下さい。ドライバを、ハードディスクにコピーされてインストールされる場合は、ドライバをコピーしたフォルダに、Setup アイコンがあります。



Setup アイコンをダブルクリックすると、インストール用セットアッププログラムが起動しますので、[はい(Y)]ボタンを押して、インストールを開始して下さい。



インストールが終了すると、以下の画面になりますので、[OK]ボタンを押してセットアッププログラムを終了して下さい。



FlashBuster の P C カードを、パソコンに挿入して下さい。Windows は、新しいハードウェアを検出したとの表示を出して、自動的に **FlashBuster** を Y-E DATA External FD として認識します。

マイコンピュータに、3.5 インチ FD が D ドライブなどとして追加されます。ドライブ名は、お使いのパソコンの環境によって、D ドライブ以降の空いた名前となります。A ドライブは、**FlashBuster** ではありませんので、ご注意下さい。



以上で、**FlashBuster** がお使いになれます。

4.5.3. ディスク BIOS INT13 サポートについて

Windows 95 用ドライバでは、**FlashBuster** に対する BIOS 機能 (INT 13) は、未サポートになっています。まれに、アプリケーションによっては INT 13 を使用している場合があります。必要な場合は、「4.7. INT 13 を有効にする方法 (Windows 95 用ドライバ) (P.24)」に従い、INT 13 を有効にして下さい。なお、INT 13 を有効にした場合、タスクトレイの P C カードアイコンをクリックしての **FlashBuster** の取り外しが出来なくなりますので、通常は、無効のまま、ご使用下さい。

4.6. メモリカードから Windows 95 ドライバをインストールする

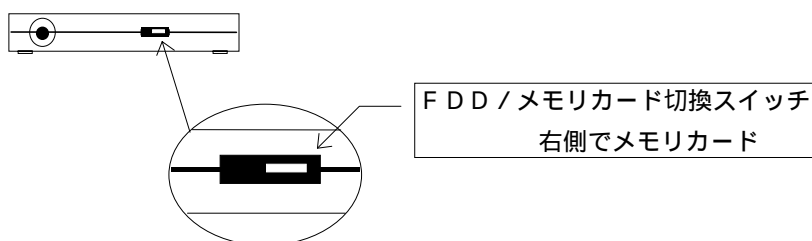
付属のドライバディスクがお使いになれない場合は、FlashBuster をメモリカードモードに切換えて、P Cカード内に格納されているドライバを読出すことができます。ドライバは、Windows 95 用ですが、ドライバの設定を変更することで、Windows 98 でも動作します。Windows 98 でご使用の方も、以下の説明に従って、メモリカードから、Windows 95 用のドライバをインストールして下さい。

4.6.1. FlashBuster を、メモリカードモードに切換える

FlashBuster の P Cカードは、切換えによって、ドライバソフトが読みだせるメモリカードモードと、フロッピーディスクを読み書きする F D Dモードがあります。

メモリカードモードに切換えますと、Windows から、SRAM カードとして、ドライバソフトが読み出せるようになります。

FlashBuster 本体後方にあるスライドスイッチを、ケーブルから遠いほうに移動して、メモリカードモードに切換えて下さい。



4.6.2. Windows を SRAM メモリカードが読める設定に変更する

Windows 98/95 でメモリカードを使用するためには、`config.sys` を変更して再起動する必要があります。以下の手順にて設定を行って下さい。

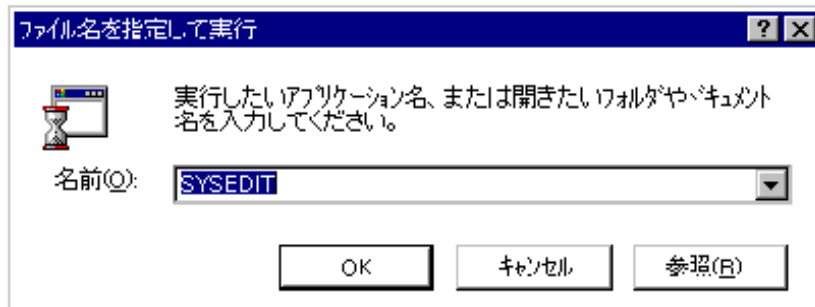
1) システムエディターを起動する

”タスクバー”の『スタート』ボタンをクリックすると、メニューが表示されます。

この状態にて『ファイル名を指定して実行』をクリックして下さい。



『ファイル名を指定して実行』にて **SYSEDIT** と入力して、[OK]をクリックして『システムエディタ』を起動して下さい。



2) CONFIG.SYS を編集する

『システムエディタ』が起動すると以下のようなウィンドウが表示されます。



「C:\CONFIG.SYS」をクリックし、**CONFIG.SYS** の最終行に以下の例を参考にしメモリカード用デバイスドライバを追加して下さい。

例)

`device=c:\windows\system\csmapper.sys`

`device=c:\windows\system\carddrv.exe /slot=N`

N はスロットの数を 1 とか 2
と数字で記入して下さい

この例は Windows が Cドライブの **WINDOWS** という名前のディレクトリにインストールされている 場合です。Windows が他の場所にインストールされている場合は上記の“c:\windows”を Windows のインストールされているディレクトリ名に変更して下さい。

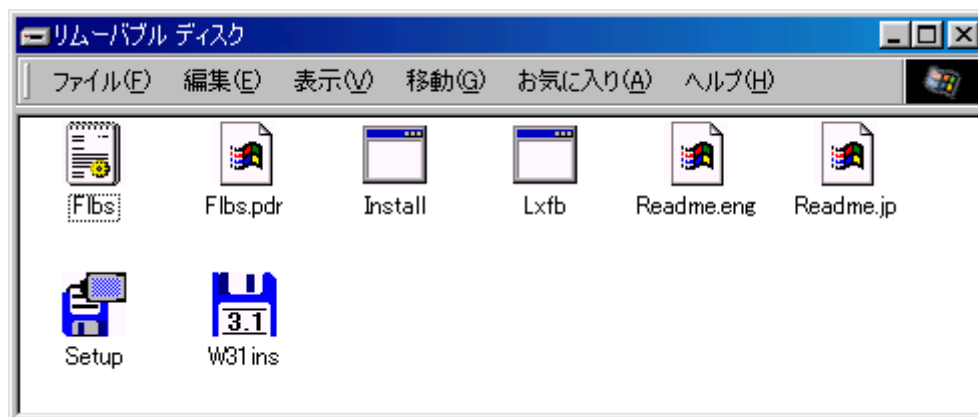
変更が終了しましたら、システムエディターを終了して下さい。終了時に、「変更を保存しますか？」のダイアログが出ましたら、[はい(Y)]を選んで下さい。システムエディタが終了したら、一旦パソコンを再起動して下さい。再起動後に、変更した設定が有効になります。

3) FlashBuster PCカードの内容の表示

メモ리카ードモードにした **FlashBuster** をパソコンに接続して下さい。メモ리카ードは、リムーバブルディスクとして、表示されます。『マイコンピュータ』を開いて、PCカードを挿入したスロットに割り当てられたリムーバブルディスクのアイコンをダブルクリックし、PCカードの内容を表示して下さい。



以下のように、**FlashBuster** のメモ리카ードの内容が表示されます。リムーバブルディスクが複数表れた場合は、順番に試して下さい。

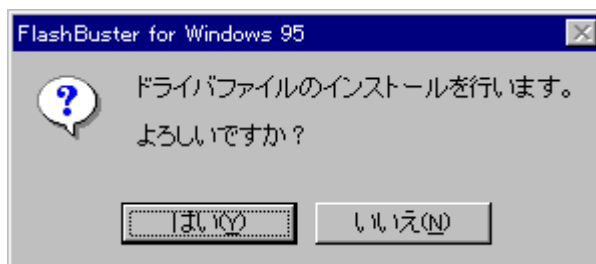


リムーバブルディスクのアイコンが全く表示されない場合は、2) **Config.sys** を編集する部分で間違いがないかご確認下さい。

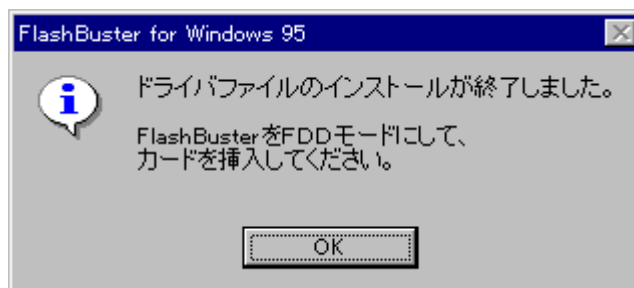
4.6.3. メモリカードから、インストールプログラムを起動する

Setup アイコンをダブルクリックして、インストール用のセットアッププログラムを起動して下さい。

セットアッププログラムが起動すると、下図のウィンドウが表示されますので、[はい(Y)]をクリックして下さい。



インストールが正常に終了した場合、下図のウィンドウが表示されますので、[OK]をクリックして下さい。



これで、ドライバソフトのインストールは終了しました。**FlashBuster** のモード切換えスイッチを、FDDモードに切換えて下さい。また、Windows に設定した、SRAM メモリカードの設定は、不要となりますので、システムエディタを用いて、追加した2行を削除して下さい。

【注意】 Windows 98 でお使いの方は、**FlashBuster** をお使いになる前に、ドライバの設定を変更する必要があるため、続けて、次のページの INT 13 を有効にする方法に従って、INT 13 を有効にして下さい。**FlashBuster** をパソコンに接続すると「マイコンピュータ」に「3.5 インチ FD」アイコンが追加されますが、パソコンがハングアップすることがありますので、INT13 を有効にする前には、クリックしないようにして下さい。

INT 13 を有効にしますと、**FlashBuster** がお使いになれるため、付属のドライバディスクから、Windows 98 用のドライバをインストールして下さい。

Windows 95 でお使いの方は、これでインストールは終了です。**FlashBuster** を接続することで、フロッピーディスクをお使いになれる。

4.7. INT 13を有効にする方法(Windows 95 用ドライバ)

Windows 98 をお使いの方で、Windows 95 のドライバをお使いになる場合や、Windows 95 をお使いで、特殊なアプリケーションで、INT 13 を有効にする必要がある場合は、以下の説明に従って、INT 13 を有効にしてください。

通常は、初期設定の無効のままでお使い下さい。有効にしますと、タスクトレイのPCカードアイコンをクリックすることによる **FlashBuster** の取外しが出来なくなります。

Windows 98 ドライバでは、INT 13 は常に有効になっており、設定の変更は出来ませんが、タスクトレイのPCカードアイコンをクリックして、**FlashBuster** の取外しは出来ません。

4.7.1. システムのプロパティの起動

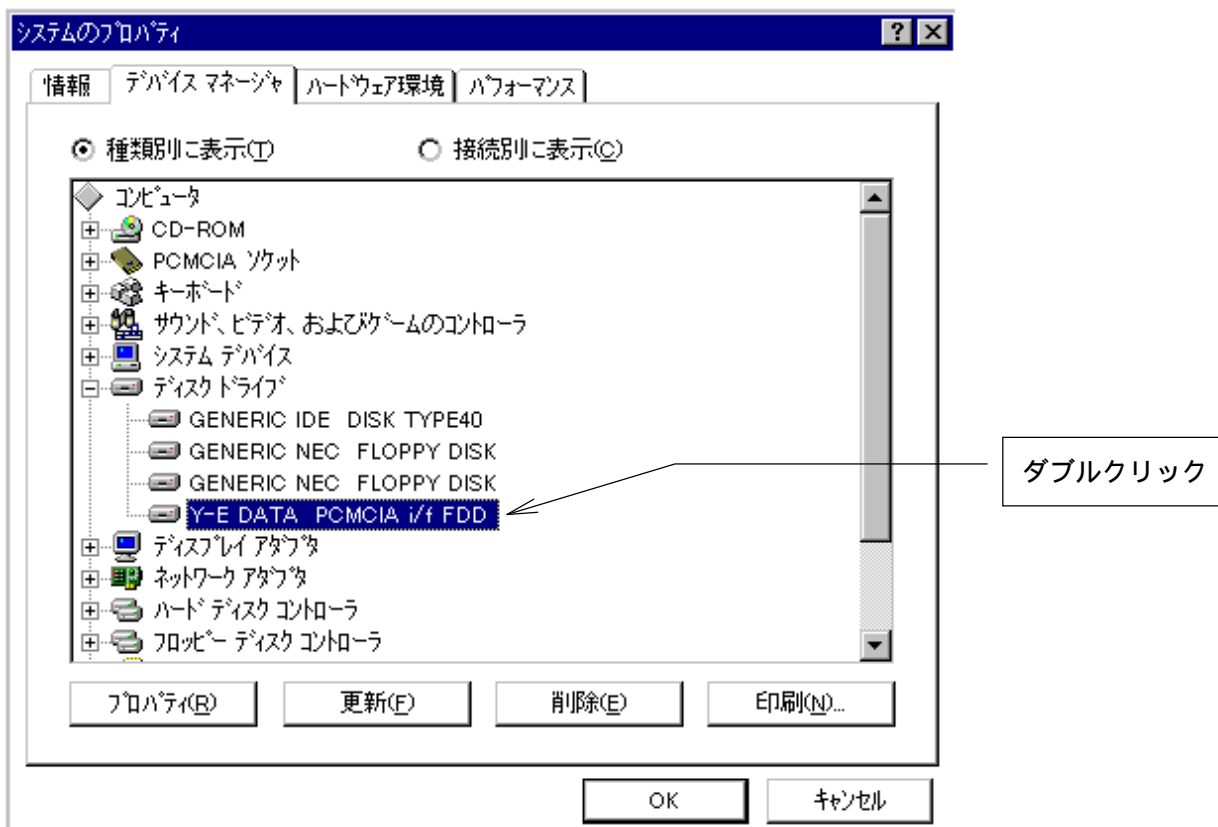
FlashBuster をお使いのパソコンと接続して下さい。マイコンピュータに現れる **FlashBuster** の「3.5 インチ FD」のアイコンは、設定が終るまでクリックしないようにして下さい。

コントロールパネルの[システム]アイコンをダブルクリックし、「システムのプロパティ」ダイアログ ボックスを開いて下さい。



4.7.2. FlashBuster(Y-E DATA PCMCIA i/f FDD)のプロパティを開く

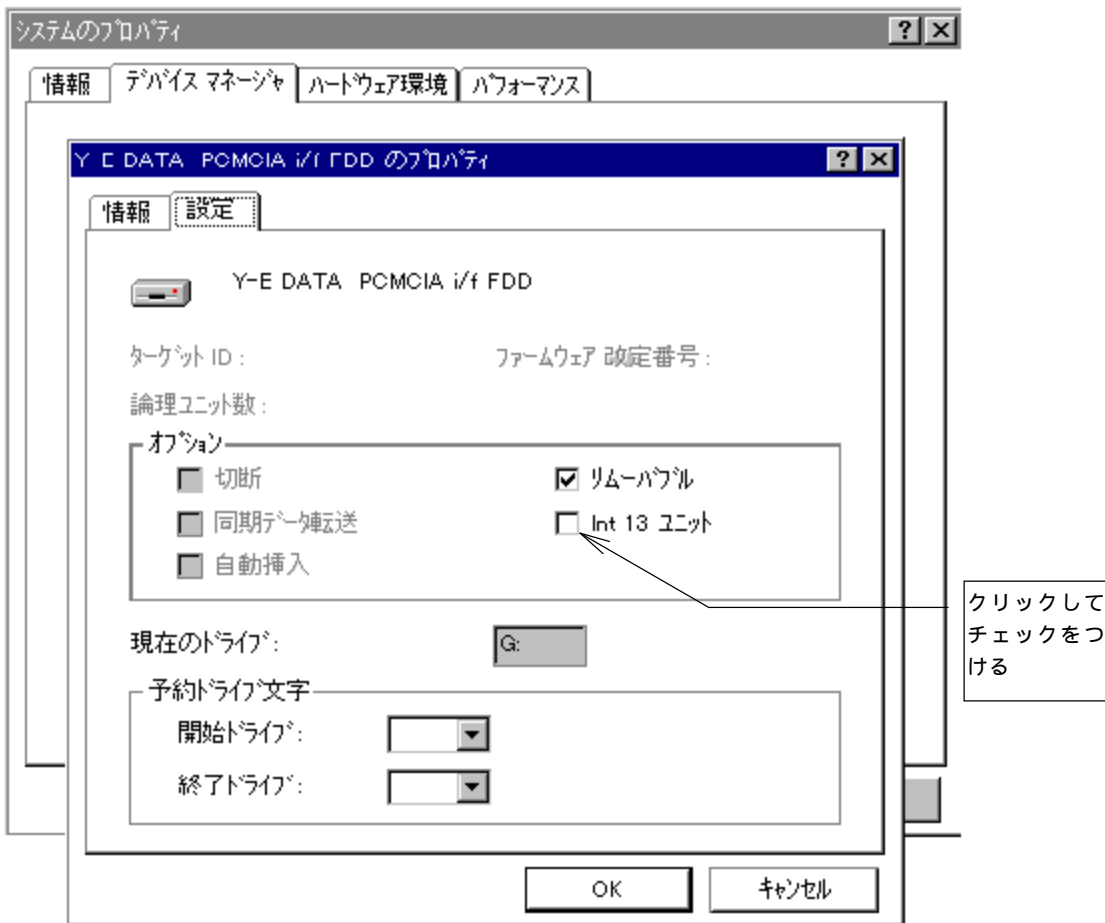
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが開いたら、[デバイス マネージャ]の[ディスクドライブ]の左のプラス記号 (+) をクリックし、接続されているドライブの一覧を表示します。その後、下図のように[Y-E DATA PCMCIA i/f FDD]をダブルクリックし、プロパティのウィンドウを開いて下さい。



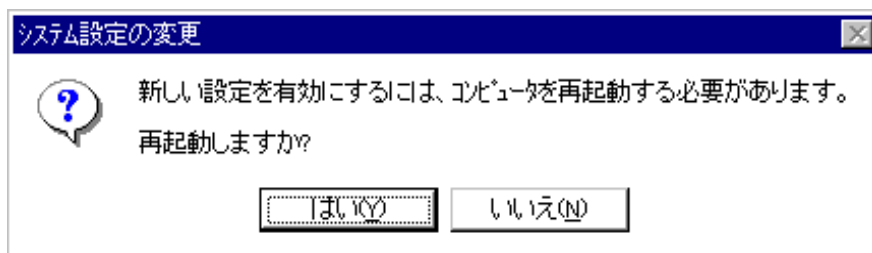
4.7.3. INT 13の設定変更

[Y-E DATA PCMCIA i/f FDD のプロパティ]で[設定]タブをクリックし、オプション設定項目にある[Int 13 エントリ]をクリックしてチェックマークを付けて下さい。その後、[OK]をクリックし[Y-E DATA PCMCIA i/f FDD のプロパティ]を終了し、[システムのプロパティ]の画面に戻り、再度[OK]をクリックして[システムのプロパティ]を終了して下さい。

【注意】Windows 98をお使いで、Windows 95用ドライバをインストールした場合、最初から、Int 13 ユニットのチェックがついている場合があります。この場合は、一旦チェックを外して、再度チェックマークを付けて下さい。



[システムのプロパティ]が終了すると下図のウィンドウが表示されますので、システムを再起動することにより、**FlashBuster** で INT 13 が使用可能となります。



なお、INT 13 を無効にするには、上記の[INT 13 ユニット]のチェックを消去し、システムを再起動することにより無効となります。

【注意】Windows 98 でお使いの方は、これで、**FlashBuster** がお使いになれます。続けて、「4.4. Windows 98 パソコンの場合(P.16)」をご参照になって、付属ドライバディスクを用いて、Windows 98 用ドライバにアップデートして下さい。

4.8. MS-DOS または、Windows3.1 の場合

FlashBuster をお使いになるためには FlashBuster 用ドライバをインストールしなければなりません。

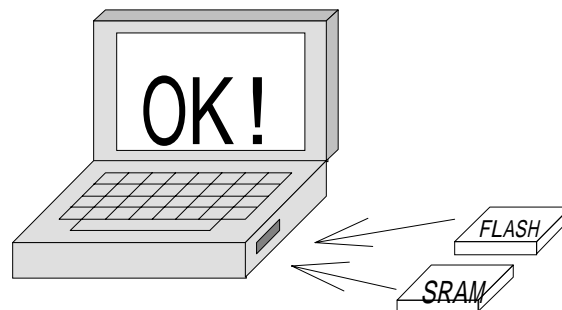
【重要】 IBM 社の PC-110 では、FlashBuster に AC アダプタを接続する必要があります。インストール方法は、以下の説明にしたがって行えますが、config.sys の設定を変更する必要がありますので、「5.7. IBM社製 PC 110 で動作しない(P.38)」を参照下さい。

4.8.1. インストール

【注意】 FlashBuster 用ドライバをインストールするためには、PC カードドライバを先にインストールする必要があります。

1) インストールを始める前に

インストールするパソコンは、メモ리카ードが使える状態になっていなければなりません。お手持ちの SRAM カードやフラッシュ ATA カードなどが問題なく動作することを事前にご確認下さい。もしお手持ちのカードが正しく読み書き出来ない時は、FlashBuster をインストールする前に、まずパソコンの説明書に従って、メモ리카ードが正しく読み書き出来るように設定して下さい。



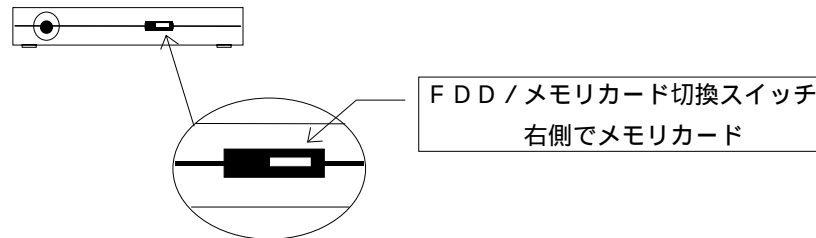
2) パソコンの電源投入/DOS の立ち上げ

パソコンの電源をオンにして、DOS コマンドが入力出来る状態にして下さい。Windows3.1 が既に動作している時はファイルマネージャを起動して下さい。

```
C:¥>_
```

3) FlashBuster をメモリカードモードに変更

FlashBuster をメモリカードとして使用する状態 (F D D /メモリカード切換えスイッチを右側にセット) でコンピュータの P C カードスロットに挿入します。



4) インストールプログラムの起動

以下では、メモリカードが D:ドライブとして割り当てられているものとしてご説明いたします。

DOS からの場合、キーボードより [D][:][Enter] と入力します。([D]はメモリカードの装置番号です。ご使用環境に応じて変更して下さい。)次に [I][N][S][T][A][L][L][Enter] と入力して下さい。

Windows3.1からの時は、ファイルマネージャで D:ドライブを選び、W31INS.EXE をダブルクリックして下さい。

```
C:¥>D:  
D:¥>INSTALL
```

【注意】 Windows3.1 からでは、INSTALL.EXE は起動出来ません。W31INS.EXE を起動して下さい。

5) インストールプログラムの初期画面

```
Flash Buster インストレーション ユーティリティ

Flash Buster を使用するソケット番号  0
コンボドライブ・ユニットの使用        N
インストール先のディレクトリ名          C:¥PCMCIAFD
DOS起動ドライブ名                       C
コンフィギュレーション                 COMMON

      [OK]      [QUIT]

<TAB/S-TAB>=次項/前項,<Left/Right>=選択,<F3>=終了
```

インストールプログラムが起動するとこのような画面が表示されます。各設定項目は自動的に設定されるため、特に設定の必要がない場合はそのまま[Enter]キーを押し、11)項に進んで下さい。もし、設定を変更する場合は[**TAB**]キーにて項目を指定し、変更します。

6) ~ 10)項を参照下さい。

【注意】 入力中、画面の下2行には、キー入力と、現状設定の説明が表示されています。また[**TAB**]キーを押すと次の項目へ、[**Shift**]+[**TAB**]キーを押すと前の項目へ移動します。

6) ソケット番号

FlashBuster を使用するソケット番号の項は、FlashBuster を使用するソケット番号を指定します。ソケット番号を少なくとも1つは指定して下さい。もちろん複数のソケットで使用することも可能です。例えば1,2と指定した場合は、ソケット0では使えず、ソケット1と2で使用出来ます。ソケット番号は0~9までに対応しています。なお、本マニュアルでのソケット番号は、常に0から始まるものとお考え下さい。

【注意】 パソコンによっては、一番小さなソケット番号を1と表示している場合がありますので、ご注意下さい。

7) コンボドライブ・ユニット

コンボドライブ・ユニットの使用の項は、常に、Nを指定して下さい。

8) インストール先のディレクトリ名

インストール先のディレクトリ名の項は、FlashBuster 用ドライバをインストールするディレクトリを指定して下さい。

【注意】 指定は必ずフルパスネームで指定して下さい。

9) DOS 起動ドライブ名

DOS 起動ドライブ名の項は、通常DOSを起動するドライブ名を指定します。インストーラは、ここで指定されたドライブの、ルートディレクトリにある **CONFIG.SYS** ファイルにデバイスドライバを登録します。なお、以前の **CONFIG.SYS** ファイルは、**CONFIG.nnn** (nnn は、3桁の数字) にて保存されます。

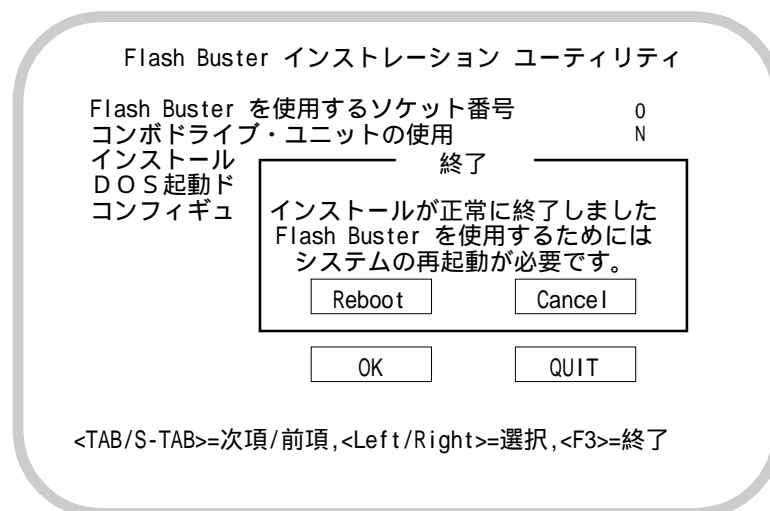
10) コンフィギュレーション

コンフィギュレーションの項目は、現在ご使用になっているDOSのバージョンが6.0以降の場合だけ表示されます。**CONFIG.SYS**のメニュー機能を用いている場合、どこかのメニューに登録するかを指定します。省略値は **COMMON** となっており、すべてのメニューで **FlashBuster** が利用出来ます。

11) インストーラの終了

OKの項で**[Enter]**キーを押すと、しばらくして次のような終了ダイアログが表示されます。通常は、**[Enter]**キーのみを押してシステムを再起動して下さい。

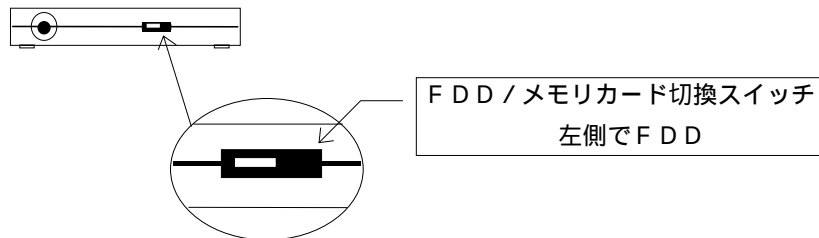
一旦DOSまたは、Windowsに戻りたい時は、**[TAB]**キーで **Cancel** を選択し**[Enter]**を押して下さい。



【注意】FlashBuster はシステムを再起動するまでご使用になれません。

12) FlashBuster を F D D モードに変更

FlashBuster の P C カードをコンピュータの P C カードスロットから取り外した後、F D D / メモリカード切換えスイッチを F D D (左側) に設定して下さい。



4.8.2. FlashBuster の接続方法

1) インストール後の起動画面

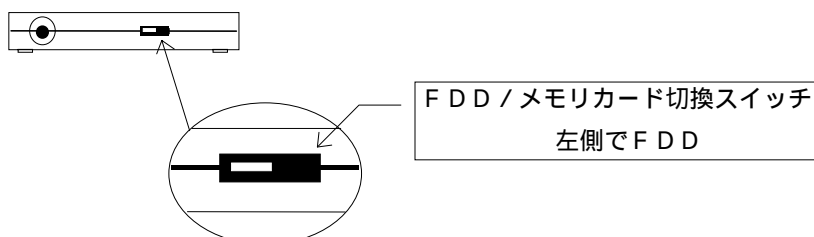
デバイスドライバの登録が終わったシステムでは、DOS の起動途中で次のような画面が表示されます。

```
Phoenix 3 Mode FD Driver Version X.XX for FlashBuster
(C) Copyright 1994 Phoenix Technologies Ltd.
All Rights Reserved
Socket 0 - installed 1 unit at drive E:
Socket 1 - installed 1 unit at drive F:
```

この例ではソケット 0 に挿入した **FlashBuster** は、E ドライブ、ソケット 1 に挿入した **FlashBuster** は、F ドライブとしてアクセスできることを示しています。

2) FlashBuster の接続

FlashBuster の動作モードが F D D となっていることを確認してから P C カードをソケットに差し込んで下さい。



これだけで、1)で示されたドライブとしてすぐにご使用になれます。

4.8.3. インストーラのエラーメッセージ

1) カードサービスがインストールされていません。

カードサービスとは、PCカードをどのパソコンでも同じ手順で使えるようにするためのソフトです。FlashBuster もこの取り決めに従って動作しますので、予めカードサービスがインストールされていないと動作しません。ご使用になっている、パソコンのメーカーにお問い合わせして下さい。

2) カードサービスのバージョンが2.0未満です。このシステムでは使えません。

カードサービスのバージョンが2.0未満の場合、I/Oカードを使用することが出来ません。新しいバージョンのカードサービスを入手して下さい。

3) カードサービスのバージョンが2.1未満です。動作しない恐れがあります。

FlashBuster は、バージョン 2.1 規格に準拠しています。2.0 以上であれば動作する場合がありますが、動作の保証はいたしません。可能であれば、新しいバージョンのカードサービスを入手して下さい。

【ご参考】MS-DOS 用のカードサービスは、各メーカー共に生産を終了して、現在入手難となっております。ご使用になっているパソコンのメーカーにお問い合わせでも、入手出来ない場合は、製品お問い合わせ窓口(P.40)にお問い合わせ下さい。また、Windows 95 発売以降に生産されたパソコン用には、DOS 用の PC カードサービスドライバが存在しないものもあります。この場合は、Windows 95 / 98 でお使い下さい。

4.8.4. デバイスドライバのエラーメッセージ

1) ソケット N は存在しません。

存在しないソケット番号Nが指定されています。正しいソケット番号にて FlashBuster を再インストールして下さい。

2) ドライブが多すぎます。

DOS では、A から Z までの最大 26 個のドライブを扱うことが出来ますが、それ以上の数のドライブを使うような設定になっています。例えば、一つのカードソケットに、ATA (ハードディスク) やメモリカード、FlashBuster など様々な機能を全て持たせたり、MS-DOS の DBLSPACE 機能を使った時などは装置番号が多数割り当てられますから、ソケット毎に機能を整理するなどして各機能の再インストールを行って下さい。

3) カードサービスがインストールされていません。

「4.8.3. インストーラのエラーメッセージ (P.32)」の 1) を参照下さい。

4) カードサービスのバージョンが 2.0 未満です。このシステムでは使えません。

「4.8.3. インストーラのエラーメッセージ (P.32)」の 2) を参照下さい。

5) カードサービスのバージョンが 2.1 未満です。動作しない恐れがあります。

「4.8.3. インストーラのエラーメッセージ (P.32)」の 3) を参照下さい。

4.8.5. デバイスドライバの説明

ここでは、デバイスドライバのオプションスイッチについて説明します。通常は、インストールプログラムで自動的に値が設定されますが、テキストエディタで **CONFIG.SYS** を編集して修正する場合は、下記パラメータ、スイッチの意味にご注意下さい。

1) 書式

DEVICE[HIGH]=[装置番号:][パス]PCMCIAFD.SYS[スイッチ1][スイッチ2]パラメータ

2) [装置番号:][パス]

デバイスドライバ **PCMCIAFD.SYS** が存在する装置とパスを指定します。

3) スイッチ 1

/0 /1 /2 /3 /4 /5 /6 /7 /8 /9

FlashBuster を使用するカードソケット番号を指定します。

この指定がない場合は、使用出来るソケット番号全てにドライブ番号を予約します。

4) スイッチ 2

/COMBO=[Y][N]

コンボドライブを使う場合の設定ですが、**FlashBuster** では、常に、N を指定して下さい。

Y を指定した場合は、カード 1 枚につき 2 台分の装置番号を予約します。

N を指定した場合は、カード 1 枚につき 1 台分の装置番号を予約します。

5. 正常に動作しないとき

5.1. Windows で、「3.5インチFD」のアイコンが出ない

正しくインストールされていれば、**FlashBuster** をパソコンに接続すると、「マイコンピュータ」の中に、「3.5 インチ FD」のアイコンが追加されます。

5.1.1. 「その他のデバイス」として認識されていませんか？

FlashBuster をパソコンに接続した状態でコントロールパネルの「システム」アイコンをダブルクリックして、システムのプロパティを起動して下さい。

「デバイスマネージャ」のタブをクリックして「その他のデバイス」に「Y-E DATA External FDD」が追加されていないかをご確認下さい。

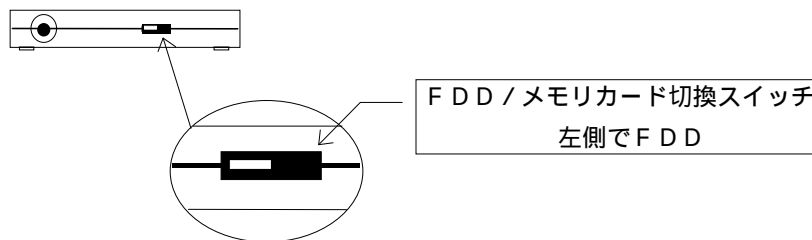


上記のように、「Y-E DATA External FDD」が追加されていた場合はドライバが正しくインストールされていないか、インストール前に、**FlashBuster** を接続してしまったことが考えられます。「Y-E DATA External FDD」をクリックして選択してから、[削除(E)]ボタンを押して削除して下さい。削除出来たら、**FlashBuster** をパソコンから一旦取り外し、正しくドライバをインストールして下さい。インストール後に接続すると、「新しいハード

ウェアが検出されました」のダイアログが出て、自動的にドライバがインストールされます。

5.1.2. FlashBuster のモード切換えスイッチが、FDD になっていますか？

FlashBuster を一旦パソコンから取り外して、モード切換えスイッチが、FDD モードになっていることをご確認下さい。確認後、**FlashBuster** をパソコンに接続して下さい。



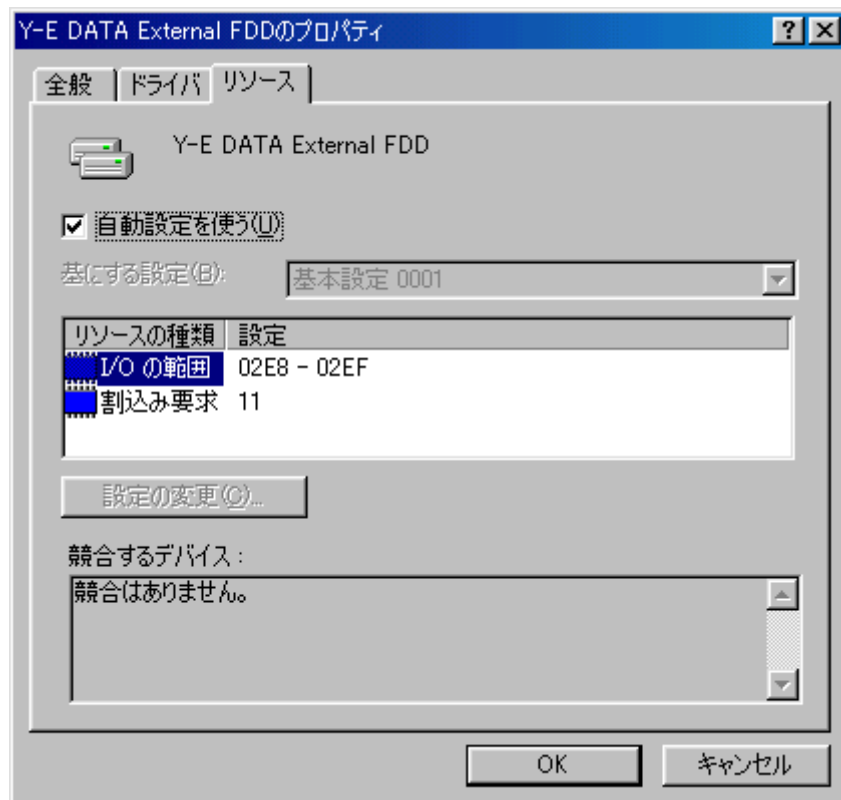
5.1.3. リソースは正しく割り当てられていますか？

FlashBuster をパソコンに接続した状態でコントロールパネルの「システム」アイコンをダブルクリックして、システムのプロパティを起動して下さい。「デバイスマネージャ」のタブをクリックして「フロッピーディスクコントローラ」の左側の「+」の部分をクリックして、「Y-E DATA External FDD」が追加されていることを確認下さい。



【注意】 東芝 Libretto シリーズでは、「TOSHIBA PCMCIA Floppy」となります。

Y-E DATA External FDD をクリックして選択してから、**プロパティ(R)**ボタンを押して、リソースを確認下さい。



- ・ I/O の範囲は、連続した 8 ポートが割り当てられていることを確認下さい。
連続した 8 ポートは、xxx0-xxx7 とか、xxx8-xxxF(x は、任意)などの表示になります。
連続した 8 ポートになっていない場合は、**自動設定を使う**のチェックをはずして、手動で指定して下さい。
- ・ 割り込み要求は、任意の 1 つが割り当てられていることを確認下さい。
割り込みが割り当てられていない場合は、動作が遅くなりますので、手動設定にて、割り込みを割り当てるようにして下さい。
- ・ 競合するデバイスに競合の表示がないことを確認下さい。
競合するデバイスがある場合には、手動設定で、競合するデバイスのリソースを調整して下さい。Windows のヘルプで、「ハードウェアの競合」(Windows98)か、「ハードウェアの競合に関するトラブルシューティング」(Windows 95)を参考にして下さい。
(Windows のヘルプは、スタートメニューから、ヘルプを選択して下さい。)

【注意】 Windows 95 がプリインストールされている Libretto の場合は、

I/O ポートアドレスは、**03A8-03AF**、IRQ は **15** となっていることを確認下さい。これ以外
の設定では動作しないことがあります。

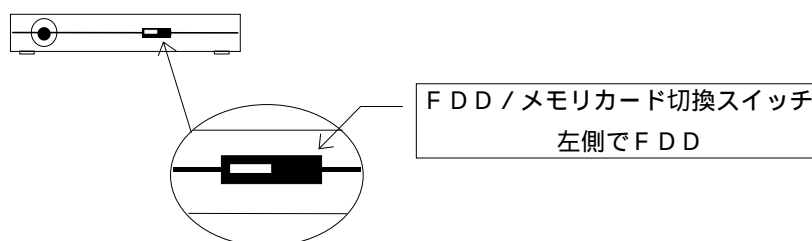
5.2. ドライブの準備が出来ていないと表示される

5.2.1. A: ドライブをアクセスしていませんか？

FlashBuster は、Libretto シリーズなど特別のパソコンを除いて、A: ドライブとしては、アクセス出来ません。Libretto の場合には、「5.1.1. 「その他のデバイス」として認識されていませんか？ (P.34)」を参照して確認下さい。

5.2.2. FlashBuster のモード切換えスイッチが、FDD になっていますか？

FlashBuster のモード切換えスイッチは、FDD モードになっていることをご確認下さい。



5.3. カードを入れた直後の数秒間キーボード入力出来ない

コンピュータは、メモリカードが差し込まれた場合その種類を調べるために、かなりの時間を必要とする場合があります。

5.4. 他の I/O(モデムなど)カードが FlashBuster と同時に動作しない

Windows95/98 でご使用の場合は「5.1.3. リソースは正しく割り当てられていますか？ (P.35)」を参照して、ハードウェアの競合が発生していないか、確認下さい。

MS-DOS または、Windows3.1 でご使用の場合、FlashBuster カードを、他の I/O カードよりも後に入れて下さい。常に、カードを差し込んだ状態でお使いになる場合は、FlashBuster をソケット番号の大きい方に、差し込んで下さい。

5.5. カードを差し込んだ後の最初のリードライトに時間がかかる

FlashBuster は、カードが差し込まれた直後のリードライトの時にドライブの種類を識別するために 1 ~ 2 秒程かかります。従ってこの遅れは故障ではありません。

5.6. FlashBuster でのリードライトが異常に遅い

FlashBuster に割り振られた割り込み番号が他のデバイスと重複している可能性があります

す。Windows 95/98 の場合は、「5.1.3.リソースは正しく割り当てられていますか？ (P.35)」を参照下さい。

5.7. IBM社製 PC110で動作しない

PC110では、FlashBusterにACアダプタを接続してからご使用下さい。

また、CONFIG.SYSのDEVICEHIGH=C:\EZIPALY\RMUDOSAT.SYSの設定に3C0-3CFを追加し、以下のようにして下さい。

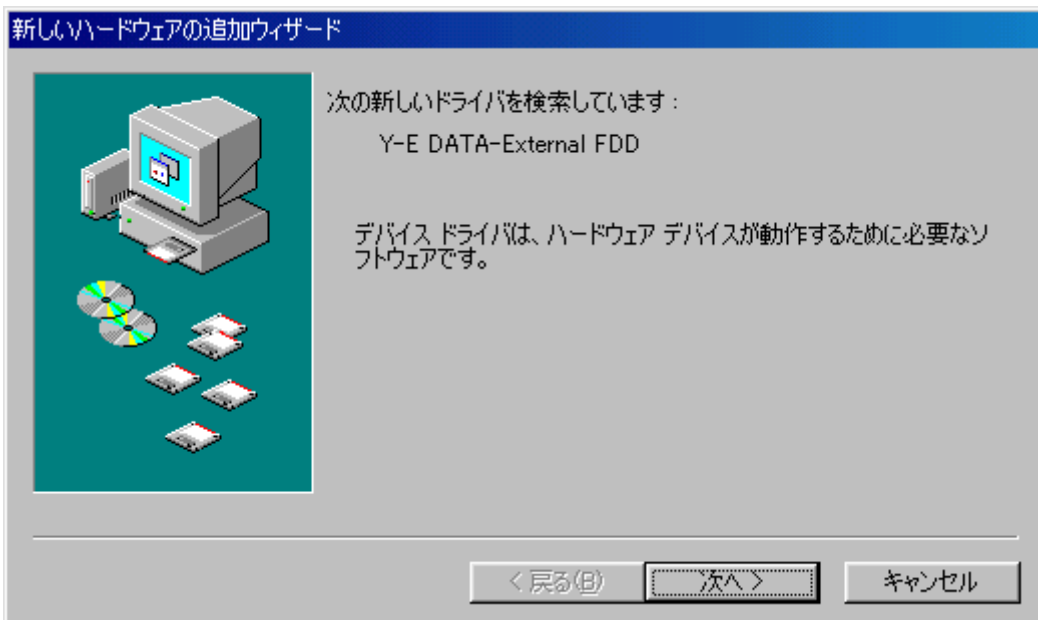
```
DEVICEHIGH=C:\EZIPALY\RMUDOSAT.SYS /MA=DC00-DDFF /IX=5,10  
/PX=15E0-15EF,35E0-35FF,3C0-3CF
```

【注意】紙面の都合上、上記では改行していますが、CONFIG.SYS上では、1行で記述して下さい。

5.8. FlashBuster を接続したら、ハードウェアウィザードが出る

以下の表示が出る場合は、ドライバがまだインストールされていません。[キャンセル]ボタンを押して、ハードウェアウィザードを終了させて、FlashBusterを取り外してから、付属のドライバディスクからドライバをインストールして下さい。

このまま[次へ]のボタンを押してのインストールは出来ません。



5.9. FlashBuster から起動(Boot)出来ない

FlashBusterは、Librettoなどの特別に、PCカードFDDをBIOSレベルでサポートしているパソコンを除いて、起動(Boot)することは出来ません。

6. 製品仕様

| フロッピーディスク | | 2HD | | | | 2DD | |
|--------------|--------|--------------|------|--------------|------|--------------|------|
| 未フォーマット容量 | | 2.0 MB | | 1.6 MB | | 1.0 MB | |
| フォーマット 容量 | セクタ長 | 容量 | セクタ数 | 容量 | セクタ数 | 容量 | セクタ数 |
| | 512 B | 1440 kB | 18 | 1200 kB | 15 | 640 kB | 8 |
| | 512 B | - | - | - | - | 720 kB | 9 |
| | 1024 B | - | - | 1280 kB | 8 | - | - |
| トラック数 | | 80 | | 80 | | 80 | |
| ヘッド数 | | 2 | | 2 | | 2 | |
| 記録方式 | | MFM | | MFM | | MFM | |
| モーター回転速度 | | 300 rpm | | 360 rpm | | 300 rpm | |
| データ転送速度 | | 500 kbit/sec | | 500 kbit/sec | | 250 kBit/sec | |

| 電 源 | A Cアダプタ (A Cアダプタ添付モデルのみ) | | 入力 AC 100 V 出力 DC 5V , 1A | |
|----------------|-----------------------------|-------------------|-------------------------------------|-------------------------|
| | ドライブユニット及びカード | | 入力 DC 5V 900mA (最大) | |
| 消 費 電 力 | 4.5 W (最大) | | | |
| 環 境 条 件 | 環 境 項 目 | | 動 作 時 | 非 動 作 時 |
| | 温 度 | | 5 ~ 40 | -40 ~ 60 |
| | 相 対 湿 度 | | 30 ~ 80 %RH | 5 ~ 80 %RH かつ結露しないこと |
| | 最大湿球温度 | | 29 | - |
| | 振 動 | | 1G (10 ~ 200 Hz) | 2G (10 ~ 500 Hz) |
| | | | 0.5G (200 ~ 500 Hz) | |
| 衝 撃 | | 5G (11ms ハーフサイン波) | 100G (11ms ハーフサイン波) | |
| 寸 法 (突起含まず) | カード外形 | | 54mm(幅) × 120mm(長さ) × 5 ~ 11mm(厚さ) | |
| | ドライブユニット外形 | | 101.5mm(幅) × 147mm(長さ) × 17.2mm(厚さ) | |
| | ケーブル長 | | 30 cm | |
| 重 量 | 350 g | | | |

【警告】お使いになるパソコンマニュアルをみて、PC カードスロットの許容電流をご確認下さい。5V 900mA (0.9A)未満の場合には、FlashBuster に AC アダプタを接続する必要があります。

7. 製品お問い合わせ窓口

FlashBuster ドライバのアップデートなどのサポートは、インターネットホームページ <http://www.yedata.co.jp> にて行っております。

ご質問は、電子メール、電話、FAXでお受けしますが、出来るだけ電子メールをお使い頂きますようお願い申し上げます。

| 内 容 | 窓 口 |
|-----------------------------|--|
| ドライバのアップデート よくあるご質問と回答事例 | Worldwide Web : http://www.yedata.co.jp トップページから サポート を選んで下さい |
| 電子メールでのご質問 | メールアドレス : support@yedata.co.jp お名前、製品名 (FlashBuster)、お使いのパソコンの機種、OS の種類を記入の上、質問内容を出来るだけ詳しくご連絡下さい。 |
| 電話でのご質問 | 電話番号 : 042-932-9138 受付時間は、 平日 10:00 ~ 11:30 / 13:30 ~ 16:00 (土、日、祝日、弊社休業日を除く) |
| ファクシミリでのお問い合わせ | FAX 番号 : 042-932-9880 お名前、製品名 (FlashBuster)、お使いのパソコンの機種、OS の種類を記入の上、質問内容を出来るだけ詳しくご連絡下さい。 |

8. 付属ドライバソフトの使用条件

- お客様は、同梱された FlashBuster (ハードウェア) を使う目的でのみ、ドライバソフトをご使用できます。
- ドライバソフトの複製は、バックアップを目的の場合だけに限定されます。
- ドライバソフトの著作権は、弊社または、ソフトウェアを開発した第三者が所有しております。
- 第三者に譲渡される場合は、お客様の責任において本使用条件を守らせていただくものとします。譲渡は FlashBuster (ハードウェア) と同時にされるものとし、ドライバソフト単独の譲渡は禁止します。
- お客様は、同梱のソフトウェアを改造したり、あるいは、リバースエンジニアリング (逆アセンブルによる解析、またはそれを基にしたソフトウェアの作成) を行うことは出来ません。